

☆ 協同組合の理念に立ち返る☆

新春を迎え、全国の組合員・役職員各位をはじめ、関係業界、団体各位のご多幸のご繁栄を心からお祈り申し上げるとともに、平素の温かいご協力に対し、衷心より感謝の意を表するものでございます。

昨年は能登半島地震を含む自然災害が多発し、多くの地域が甚大な被害を受けました。特に、令和6年元旦に発生したM7.6の大地震は、石川県を中心に北陸地方の広範囲に影響を及ぼしました。この地震により、多くの方々が亡くなり、また多数の建物が損壊しました。あらためて被災を受けられた方々に謹んでお見舞い申し上げ、被災地の皆様のご健康と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、日本は人口減少と少子・超高齢化社会が進み、経済、労働、社会保障など、さまざまな分野に影響を及ぼしています。また円安により、食品価格は上昇し家計への打撃も長期化しております。

一方、気候変動など地球温暖化の進行は「気候危機」とされています。「地球沸騰化」と言われる中で頻発化、激甚化している大規模自然災害等の現状を鑑みれば、事前の備えとしての共済の役割は、災害リスク管理においてますます重要性を増しています。

令和3年度～令和5年度の3年間、当組合が風水害被害の共済加入者に対して支払った共済金は1億1,900万円を超え、被災した加入者の生活の安心を提供するという共済事業の役割を果たすことができました。これからも、組合員・加入者の生活の安心のために力を尽くすことが、酒販共済の役割であると決意を新たにしております。異常気象が原因と言われる自然災害は、今後も発生することが懸念されます。我々一人ひとりに自分自身や家族の生命と財産を守るための備えが強く求められています。

本組合の共済事業は、私たちの生活を脅かす様々な危険に対して、組合員相互に助け合う保障事業であり、今日の社会環境では「相互扶助」を基本とする協同組合の果たす役割はますます大きくなっています。

こうしたなか本年は、「ひとりは何人のために、万人はひとりのために」という協同組合の理念に立ち返り、組合員に対して組合事業を利用することの意義を働きかけ、共済制度の価値を理解していただきながら、ひとりでも多く共済事業への参画を求めてまいります。

本年も、皆様方の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健康とご多幸を心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。